

尾ノ上の風 III

第12号

学ぶ きたえる 助け合う

文責：校長 村上 正祐



子どもと向き合う 相談週間

今週、子どもと向き合って個別相談を行っています。昨年からのコロナ禍で子どもたちの心身に少しずつ変化が表れ、気持ちが不安定になるケースがありました。そのような不安を取り除いて、元気に学校に来られるように、子どもたち一人一人に話を聞き、不安や悩みを早期に解消することを目的としており、各学期に1回相談週間を設ける予定です。

これまで毎月行ってきたきずなアンケートも気になる事項があった場合には、その都度担任や職員で相談に乗って不安の解消に努めてきました。しかし、昨年度の学校評価のアンケートの結果では、いじめや不登校などに対する相談体制の充実に対して不安を感じておられる保護者の方が18%おられることが分かりました。これは、学校での取り組みを十分にお伝えできていなかったのではないかと考え、検討をしました。

そこで、その反省を踏まえ、お子さんとの面談で気になることをキャッチした場合には、早期に改善を図るとともに、その様子についても保護者にお伝えしていきます。1学期は夏休みに保護者と担任の個人面談のときにお伝えしたいと考えています。

朝は気持ちのよいあいさつから

今、尾ノ上小では東門と正門で生活委員会を中心に、たくさんのボランティアの子どもが参加してあいさつ運動が行われています。低学年のある子どものお母様は、「あいさつ運動を子どもがとても楽しみにしている。あいさつすると元気が出るし、シールを集めるのも励みになっている」とお話しをされていました。

そのような成果でしょうか、尾ノ上の校区ではあいさつする子どもが増えたと言う声をお聞きすることが多くなりました。今月23日の老公連オバパト合同会議に出席した際、「子どもたちの挨拶が年々良くなっている。今年は特に高学年の子がよく挨拶をするようになった」と言う話をお聞きし、嬉しく思います。その一方で、あいさつをされても返せない子どもたちもいるようです。

子どもたちの多くは、周りの友達に自分と仲良くして欲しいと思っていることだと思います。そのためには、自分から声をかけることが第一歩です。元気が出るあいさつがたくさん交わされる尾ノ上小になるといいなあと思います。



正門での挨拶運動の様子

朝の登校で気づいたこと

- 子どもたちが登校してくる時に、ぜひ改めて欲しいことがあります。それは、
- ① 名札をつけたまま登校してくる
 - ② iPadをむき出しのまま手持ちしてくる
- の二つ。防犯のため、本校では名札は教室において帰ることになっています。また、iPadは、ぶつくと画面を破損しやすくなります。登下校の際は、保護のために専用の手提げやランドセルに入れて持ち運ぶように指導しています。iPadは市民の税金で賄われた貸与物です。大事に扱うようご家庭でもお声かけください。

